

間にすむ。体色はその海藻の色と同じ緑色から赤褐色まで色彩変異に富んでいる。

分布 — 房総半島から九州，インド西太平洋海域に広く分布する。岩礁から浅海に生息する。

61. ツノガニ *Hyastenus diacanthus* (De Haan, 1837)

(図 15-61)

甲長 3 cm，額角長 2 cm。甲は縦長で，甲の鰓域外縁にある突起まで前側縁は広がり，その後方は急に狭まる。額棘は甲長の 2/3 ほどの長さには達し，やや開いているが，長短や開く角度には著しい変異がある。胃域は強く隆起して，中央部に鈍頭の突起がある。甲面，はさみ脚，歩脚とも軟らかい短毛で覆われている。甲面にはゴミだけでなく，ヤギ類などが付着していることが多い。

分布 — 東京湾以南，日本海，東南アジア沿岸からオーストラリアまで分布し，水深 30-100 m の砂泥底に生息する。

62. マルツノガニ *Hyastenus elongatus* Ortmann, 1893

(図 15-62)

額棘を除く甲長は 2 cm ほどで，額棘は 1 cm ほど。ツノガニ類として典型的な形態で，鰓域，胃域や腸域が適度に膨らむ。鰓域に突起がないことが本種の特徴（和名の由来）。額棘は甲長の半分程度と長く，左右平行して前方を向く。

分布 — 東京湾以南，日本海，インド洋中部までの浅海に生息する。兵庫県産。

63. イッカクガニ *Menaethius monoceros* (Latreille, 1825)

(図 15-63)

甲長は額部を含めて 1.5 cm ほど。甲の輪郭は細い三角形であるが，額部の長さには個体，成長，雌雄差があり，雌や若い個体ではやや幅が広い印象を受ける。背面は平らで，胃域と心域がわずかに盛り上がる。肝域縁に 1 突起，鰓域縁に 2 突起があり，後者の第 2 突起が前側縁と後側縁の交点に位置する。一見，コノハガニの雄のように見えるが，額は背腹に平たく（コノハガニでは左右に平たい），先端が小さく 2 つに分かれている（コノハガニでは切れ込みはない）。

分布 — 房総半島以南，富山湾以南の岩礁に生息し，インド西太平洋海域全体に広く分布している。鳥取県沿岸新記録。

64. アシナガツノガニ *Phalangipus hystrix* (Miers, 1886)

(図 15-64)

甲長，甲幅とも 2 cm ほどで，額棘は短い。甲面は盛り上がり，甲域に分けられている。甲の正中線上に円錐形の突起が 4 本あるほか，各甲域にも突起がある。鰓域には 8 突起あるが，側縁にある 4 突起が大きい。はさみ脚，歩脚とも円筒形で，雄のはさみ脚は著しく長い。歩脚も著しく長い。砂泥底に生息するが，時に膨大な個体が砂泥中に潜ったり，群れをなして移動することがある（武田ら 2007）。

分布 — 東京湾以南，石川県以南，インド西太平洋海域の水深 20-100 m に生息する。

65. ヤハズモガニ *Pugettia incisa* (De Haan, 1839)

(図 15-65)

甲長 2 cm ほどで，甲の輪郭は洋梨形。甲面は滑らかで，胃域と心域，甲の後縁が円錐形に尖っている。額歯は V 字形の切れ込みで分けられている。眼窩外歯は肝域縁と癒合して板状になっている。鰓域の後部に斜め側後方に向く棘状突起が 1 本ある。はさみ脚の各節は前後縁が薄い板状になっている。歩脚には毛の縁取りがある。

分布 — 北海道南部から九州までの両沿岸，韓国，中国沿岸。浅海の岩場に生息する。

66. ヒメモガニ *Pugettia minor* Ortmann, 1893

(図 15-66)

甲長 1.5 cm ほど。基本的にはヨツハモガニに似ているが，鰓域が丸いために全体として丸みを帯びた印象を受ける。背面は胃域，心域，腸域が認められ，それぞれ正中線が鈍い突起になっている。額棘はあまり開かず，眼窩外歯，肝域の棘，鰓域の突起も小さい。はさみ脚各節の縁は角ばっている。歩脚は細い。

分布 — 本州北部から九州までの両沿岸，東シナ海にかけて，水深 35-150 m の砂泥底に生息する。兵庫県産。

67. ニッポンモガニ *Pugettia nipponensis* Rathbun, 1932

(図 15-67)

甲長 1.5 cm ほど。ヒメモガニに似ているが，胃域，鰓域前部，腸域に数個の顆粒があるほか，鰓域の側縁にも数個の顆粒が並んでいる。これらの顆粒が明らかな粒状になっていることは少なく，集まって膨らみになっていることが多い。甲面全体に細毛が生えているがあまり目立たない。

分布 — 東北地方から九州までの太平洋岸，兵庫県以南の日本海，東シナ海にかけて各地の水深 65-600 m に

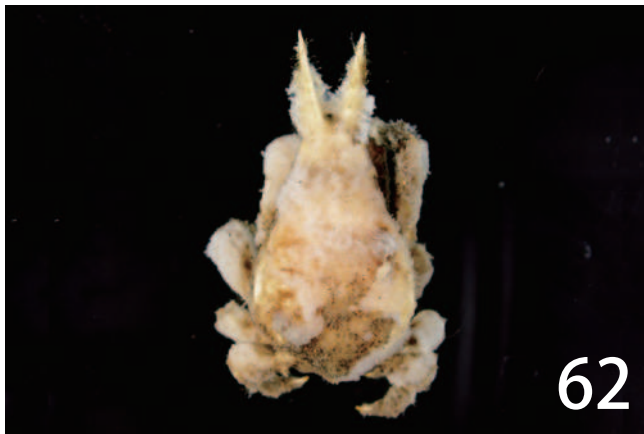


図 15 (モガニ科) . 60: コノハガニ *Huenia heraldica* (De Haan, 1837). 61: ツノガニ *Hyastenus diacanthus* (De Haan, 1837). 62: マルツノガニ *Hyastenus elongatus* Ortmann, 1893. 63: イッカクガニ *Menaethius monoceros* (Latreille, 1825). 64: アシナガツノガニ *Phalangipus hystrix* (Miers, 1886). 65: ヤハズモガニ *Pugettia incisa* (De Haan, 1839). 66: ヒメモガニ *Pugettia minor* Ortmann, 1893. 67: ニッポンモガニ *Pugettia nipponensis* Rathbun, 1932.



図 16 (モガニ科の続き) . 68: コヨツハモガニ *Pugettia pellucens* Rathbun, 1932. 69: ヨツハモガニ *Pugettia quadridens* (De Haan, 1837). 70: ヒラツノガニ *Scyra compressipes* Stimpson, 1857.

生息する。ヒメモガニと混獲されることもあるが、同所的に生息しているのかどうかは明らかではない。兵庫県産。

68. コヨツハモガニ *Pugettia pellucens* Rathbun, 1932
(図 16-68)

甲長 1 cm ほど。ヨツハモガニに似ているが小型であること、印象的に細長いこと、甲域上に明らかな突起がないこと、肝域は突起状で、眼窩外歯とは深く隔て

られていること、また、鰓域の突起は細く、棘状であることなどにより区別される。また、雄の第 1 腹肢の先端部があまり開かない。

分布 — 相模湾から紀伊半島沿岸の岩礁、ヨツハモガニよりもやや深みに生息する。日本海では秋田県沿岸から記録されている。鳥取県沿岸新記録。

69. ヨツハモガニ *Pugettia quadridens* (De Haan, 1837)
(図 16-69)

甲長 3 cm ほどで、甲の輪郭は縦長の洋梨形ないし菱形。胃域、心域、腸域、鰓域が盛り上がり、胃域に 3 個、心域と腸域に各 1 個の小顆粒がある。各甲域は滑らかで、鰓域の側部に鉤形に曲がった剛毛が生えている。肝域は板状、三角形で大きく突出している。前側縁の末端（後側縁の前端）が突起になっている。額棘は幅広く、左右に弱く開き、両縁に鉤形に曲がった剛毛が列生している。雄のはさみ脚は強大。雌はやや小型で、甲の輪郭が丸みを帯びている。雌のはさみ脚は左右とも小さい。甲の前側縁および額棘に生えている鉤形の剛毛に切り取った海藻をつけてカムフラージュしている。

分布 — 北海道以南九州までの全沿岸、韓国、中国北部の岩礁潮間帯から浅海。

70. ヒラツノガニ *Scyra compressipes* Stimpson, 1857
(図 16-70)

甲長 3 cm。甲面は盛り上がり弱く、無毛。胃域に 2 個、心域と腸域に各 1 個の目立つ顆粒があるほか、左右相称的に小顆粒がある。額は扁平で、左右が接し、先端が鋭く尖る。眼窩外歯と肝域は癒合し、大きな葉状になっているが、その後端は棘になっている。鰓域外角は棘になっていて、先端が斜め前方に向いている。はさみ脚は強大で、各節は前後縁とも薄板状になっている。

分布 — 鳥取県以北の日本海沿岸、相模湾以北北海道までの太平洋岸の浅海に生息する。

XV. ケアシガニ科 MAJIDAE

71. トゲカイメンガニ *Entomonys spinosus* Miers, 1884
(図 17-71)

甲長 2 cm ほど。甲は縦長で、眼窩の後方と肝域の後方でくびれている。胃域の正中線上に前後に 2 棘、心域に左右に 2 棘、腸域に前後に 2 小棘、肝域縁に 2、3 本の小棘、鰓域縁に 2 棘ある。額棘は短く、あまり開かない。眼窩はやや管状。甲面もはさみ脚も大小の顆粒で覆われている。歩脚の長節末端に 1 棘ある。

分布 — 相模湾以南、東シナ海、オーストラリア、アンダマン海、インド近海などの浅海から知られている。日本海新記録。

72. ヒメコシマガニ *Leptomithrax bifidus* (Ortmann, 1893)
(図 17-72)

甲長 3 cm ほど。甲幅は 2.5 cm ほど。額棘は甲長の約 1/4。額棘は基部半分は平行で、先方が外に向かって開く。甲面は大小の顆粒で覆われ、胃域に 2 本、心域に左右に並ぶ 2 本、甲の後縁中央に左右に並ぶ 2 本の鋭い棘がある。甲の側縁に鋭い 5 本の棘が並ぶ。眼窩外歯の先端が二分するものが本種の特徴である（学名の由来）。

分布 — 日本固有種で、東京湾および山形県から九州沿岸までの浅海砂泥底に生息する。鳥取県沿岸新記録。

73. コシマガニ *Leptomithrax edwardsii* (De Haan, 1839)
(図 17-73)

甲長、甲幅とも 6 cm ほどの大型種。歩脚は円筒状で著しく長く、第 1 脚から後方へ次第に短くなる。甲面は盛り上がり、滑らかな溝で明らかな甲域に分けられている。各甲域は大小の顆粒で覆われ、胃域の正中線上に瘤状突起が前後に並んでいる。肝域縁に 1 本、鰓域縁に 3 本、鰓域上に 1 本の鋭い突起が等間隔に並んでいる。生時、甲や歩脚に小さなイソギンチャクが数個ついている。

分布 — 東京湾および山形県以南、東シナ海まで分布する。生息水深は 50-300 m。

74. ヤマトケアシガニ *Maja japonica* Rathbun, 1932
(図 17-74)

甲長 2 cm ほどで、ケアシガニ類としては小型である。甲の輪郭は丸みのある洋梨形で、鰓域の膨らみが強い。甲面は一様に顆粒で覆われ、胃域に 2, 3 本の小棘があるほか、心域上に 1 個、腸域に 1 個の小突起がある。額棘はあまり開かず、先端が外方を向く。肝域には強大な突起がある。鰓域縁には離れた 2 棘があり、さらに後方の背面に 1 小棘がある。はさみ脚は細く無毛。歩脚には密な毛の縁取りがある。

分布 — 日本固有種で、相模湾から九州までの水深 110-200 m の砂泥底に生息する。日本海新記録。

75. コワタクズガニ *Micippa philyra* (Herbst, 1803)

甲長 3 cm ほどで、甲はやや縦長の楕円形。甲面は顆粒で覆われ、甲の前側縁に 4-6 個の小突起、後縁に 2 小棘がある。胃域が盛り上がり、肝域にかけて強く

低下し、また、腸域の両側も低い。額は直角に下垂し、先端が 4 歯に分かれている。

分布 — 東京湾および新潟県以南、インド西太平洋海域の岩礁に広く分布している。

76. ワタクズガニ *Micippa thalia* (Herbst, 1803)
(図 17-76)

甲長 3 cm ほどで、甲はやや縦長。甲面は顆粒で覆われ、各顆粒の周囲に数本の鉤毛が生えている。胃域の正中線上に 3 棘、心域に左右に 2 棘、鰓域に 1 棘がある。また、甲の側縁の肝域に 3 小棘、鰓域に 5 棘がある。額は下垂して、2 棘に分かれ、先端部分が外側に大きく開いている。歩脚は太く、長短の毛で密に覆われている。

分布 — 東京湾および青森県以南アフリカ東岸、紅海まで、水深 30-100 m に生息している。

77. カイメンガニ *Prismatopus longispinus* (De Haan, 1839)
(図 17-77)

甲長 3.5 cm ほど。甲は縦長の洋梨形で、鰓域が大きく膨らんでいる。胃域に前後に 2 本、心域に左右に 2 本、腸域に前後に 2 本、鰓域に 2 本の長い棘があり、それらの先端は球形になっている。額棘は左右に大きく開き、長くて先端が球形。眼窩外歯は平たく、先端が斜めに切断された状態である。はさみ脚の長節と腕節の稜は薄板状。歩脚の長節末端に 1 棘がある。和名は海綿や海藻の切れ端などでカムフラージュしていることによる。

分布 — 房総半島および福井県以南、インド西太平洋海域の水深 10-50 m の岩礁に生息する。鳥取県沿岸新記録。

XVI. ヤワラガニ科 HYMENOSOMATIDAE

78. ヒメソバガラガニ *Elamena truncata* (Stimpson, 1858)
(図 18-78)

甲幅 6 mm ほどで、甲長はやや短い。甲の輪郭は丸みのある五角形。額は幅広いが突出することなく、真直ぐに切断された形状を示す。甲の背面は平ら、滑らかで、甲域は不明瞭。はさみ脚の掌部は雄ではやや肥大している。歩脚は長く、やや扁平。指節の内縁、先端近くに三角形の歯がある。岩礁の石の下などに生息する。

分布 — 房総半島および青森県沿岸から南、オーストラリア、インドまで分布する。兵庫県産。

79. ヤワラガニ *Halicarcinus messor* (Stimpson, 1858)

(図 18-79)

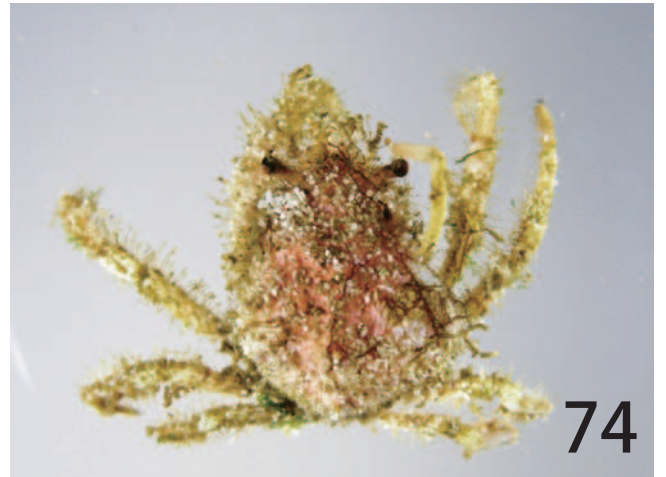
甲幅, 甲長とも 5 mm ほどの小型種で, 甲はあまり硬くない (和名の由来)。輪郭は丸みのある三角形で, 胃域と心域がわずかに隆起しているが, 全体として平ら。額は 3 歯からなるが, 左右の歯はごく小さく, 中央歯だけがへら状に突出している。甲の前側縁には 2

歯ある。はさみ脚は雄ではやや太くなり, 両指の基部に軟毛がある。歩脚は細長く, 指節は強く湾曲して内縁に小歯が列生している。岩礁の海藻の間に生息している。

分布 — 日本固有種で, 本州北部から九州まで全沿岸各地で見られる。



71



74



72



76



73



77

図 17 (ケアシガニ科) . 71: トゲカイメンガニ *Entomonys spinosus* Miers, 1884. 72: ヒメコシマガニ *Leptomithrax bifidus* (Ortmann, 1893). 73: コシマガニ *Leptomithrax edwardsii* (De Haan, 1839). 74: ヤマトケアシガニ *Maja japonica* Rathbun, 1932. 76: ワタクズガニ *Micippa thalia* (Herbst, 1803). 77: カイメンガニ *Pristomatopus longispinus* (De Haan, 1839).

80. アシボソヤワラガニ *Halicarcinus setirostris*
(Stimpson, 1858)
(図 18-80)

甲長 5 mm, 甲幅 4.5 mm ほどの小型種。甲はやや縦長の円形。甲面は平らで、甲域を分ける不明瞭な溝がある。甲の前側縁に 1 歯ある。額は 3 歯からなるが、左右の歯はごく小さい。中央歯は長い筆穂状。はさみ脚は雌雄とも細長く、雄では両指が湾曲し、広い隙間が残る。歩脚は細長い。

分布 — 青森県以南の太平洋側, 石川県以南の日本海沿岸各地, 台湾, シンガポールから知られており, 水深 15-20 m に生息する。

81. ソバガラガニ *Trigonoplax unguiformis* (De Haan, 1839)
(図 18-81)

甲幅 1.5 cm ほどで、甲長はやや短い。甲の輪郭は全体として三角形であるが、額が三角形に突出し、甲の後側縁が真直ぐであるため、前方に尖った五角形にも見える。甲は著しく平たく、甲域は不明瞭。はさみ脚、

歩脚とも細長い。歩脚の指節の内縁先端近くに二分した歯がある。甲、はさみ脚、歩脚とも膜質で、半透明。分布 — 本州北部から九州各地, 東南アジアからインド近海までの浅海に生息する。

XVII. ヒシガニ科 PARTHENOPIDAE

82. カワリヒシガニ *Cryptopodia transitans* (Ortmann, 1893)
(図 19-82)

甲幅 2 cm ほど。甲の輪郭は五角形であるが、大型個体になるほど横長になる。また、若い個体では各角が鋭く、側縁が薄い庇状になっているが、大型個体では角が丸みを帯びている。また、側縁に並ぶ平たい歯も幼体では鋭い。甲面は胃域の側方と後方がくぼみ、一方、心域と鰓域が隆起する。額は低い三角形で、突出している。はさみ脚は円筒状で、長節の両縁と掌部の上部が低い三角形の歯が連なった稜になっている。分布 — 相模湾以南, 福井県以南の浅海に分布し、フィリピンやインドからも知られている。

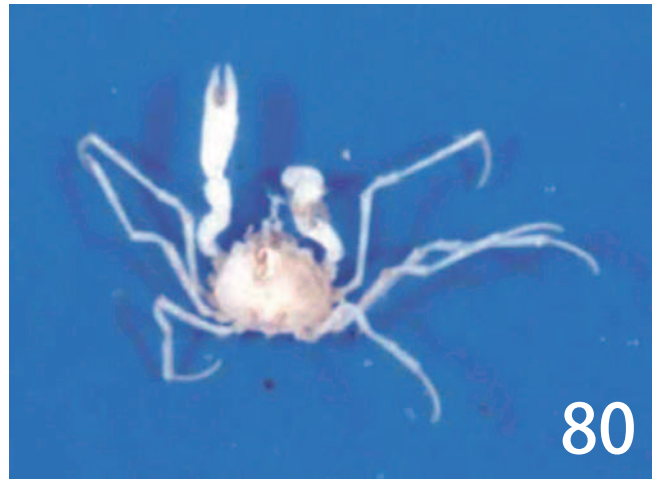


図 18 (ヤワラガニ科). 78: ヒメソバガラガニ *Elamena truncata* (Stimpson, 1858). 79: ヤワラガニ *Halicarcinus messor* (Stimpson, 1858). 80: アシボソヤワラガニ *Halicarcinus setirostris* (Stimpson, 1858). 81: ソバガラガニ *Trigonoplax unguiformis* (De Haan, 1839).

83. ホソウデヒシガニ *Enoplolambrus laciniatus*

(De Haan, 1839)

(図 19-83)

甲幅 2.5 cm ほどで、甲長はやや短い。甲面は滑らかで、顆粒はほとんどない。胃域と心域上にそれぞれ1個の小突起がある。額は上面がくぼむ。肝域縁は板状。鰓域縁には7つの板状歯が接して並んでいる。後側縁上の1歯は顕著で、ここから鰓域上に稜が走っている。はさみ脚は太く、各節はほとんど滑らかで、前後縁に小歯が並んでいる。歩脚の各節は平たく、前後縁はいずれも薄板状である。長節では板状縁が小歯に刻まれている。

分布 — 日本固有種で、土佐湾と朝鮮海峡、日本海北部の浅海から記録されている。鳥取県沿岸新記録。

84. ヒシガニ *Enoplolambrus validus* (De Haan, 1837)

(図 19-84)

甲幅 3 cm ほどで、三角形に尖った額角、ごつごつした甲面は特徴的である。甲の形の印象はヒシの実を

思わせ、また、甲が堅い(和名の由来)。胃域、心域、鰓域が強く隆起する。左右のはさみ脚は雌雄とも長大。分布 — 房総半島以南、オーストラリアまでの水深 30-200 m に生息する。

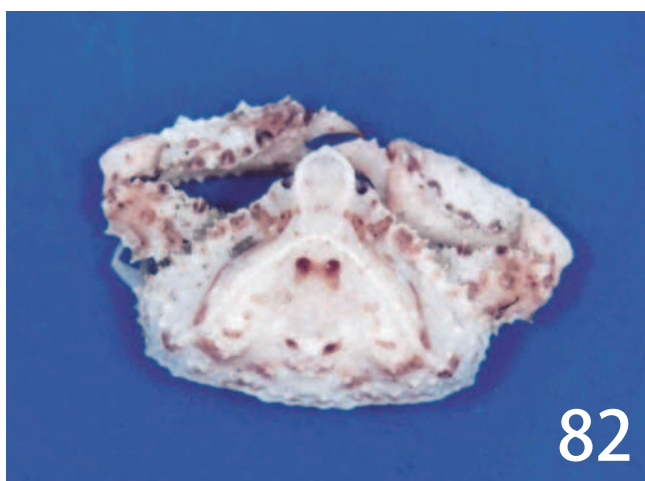
85. ミツカドヒシガニ *Garthambrus pteromerus*

(Ortmann, 1893)

(図 19-85)

甲幅 2.5 cm ほどで、甲の輪郭は三角形。胃域、心域、鰓域が盛り上がり、甲の正中線と前側縁に沿って強い稜が走る。甲の前側縁にはやや不揃いの9-10個の歯が並んでいる。はさみ脚は細長い。

分布 — 青森県から島根県沖の日本海、相模湾から土佐湾までの太平洋側のほか、ハワイからも知られている。生息水深は 45-355 m。



82



84



83



85

図 19 (ヒシガニ科) . 82: カワリヒシガニ *Cryptopodia transitans* (Ortmann, 1893). 83: ホソウデヒシガニ *Enoplolambrus laciniatus* (De Haan, 1839). 84: ヒシガニ *Enoplolambrus validus* (De Haan, 1837). 85: ミツカドヒシガニ *Garthambrus pteromerus* (Ortmann, 1893).

XVIII. クリガニ科 CHEIRAGONIDAE

86. ケガニ *Erimacrus isenbeckii* (Brandt, 1848)

(図 20-86)

有名な食用ガニ。甲長 10 cm 以上で、甲の輪郭は縦長の楕円形。甲面には顆粒が多く、数個集まった大きな顆粒の先端には短い剛毛が生えている。甲の側縁は緩やかに湾曲しているのみで、眼窩外歯を含めて 7 歯が等間隔に並んでいる。はさみ脚、歩脚とも鋭い棘状歯で縁取られ、甲面と同様の短剛毛で覆われている。分布 — 朝鮮海峡以北の日本海、茨城県以北の太平洋側、オホーツク海、カムチャッカ半島沿岸からアリューシャン列島を経てアラスカ沿岸まで。生息水深は 30-200 m。

XIX. イチョウガニ科 CANCRIDAE

87. イチョウガニ *Anatolikos japonicus* (Ortmann, 1894)

(図 21-87)

甲幅 10 cm に達する大型種。甲は横長でイチョウの葉を思わせる (和名の由来)。甲面は細かい顆粒で覆われ、全体として凹凸が著しい。甲の前側縁には眼窩外歯を含めて同大の 12 鋸歯が並んでいる。

分布 — 日本固有種で、東京湾から土佐湾、日本海全域の水深 30-100 m。

88. コイチョウガニ *Glebocarcinus amphioetus*

(Rathbun, 1898)

(図 21-88)

甲幅 3.5 cm ほどの小型種で、甲の輪郭は幅の狭い横長の楕円形。甲面は甲域に分かれているが、個体によっては各甲域が半球状に盛り上がっている。甲の前側縁には眼窩外歯を含めて三角形の 9 歯が並んでいる。

分布 — 北海道から九州までの日本全沿岸から朝鮮半島、中国北部まで、磯から水深 70 m にかけて生息し、さらに北アメリカのカリフォルニア、メキシコ沿岸にも分布している。

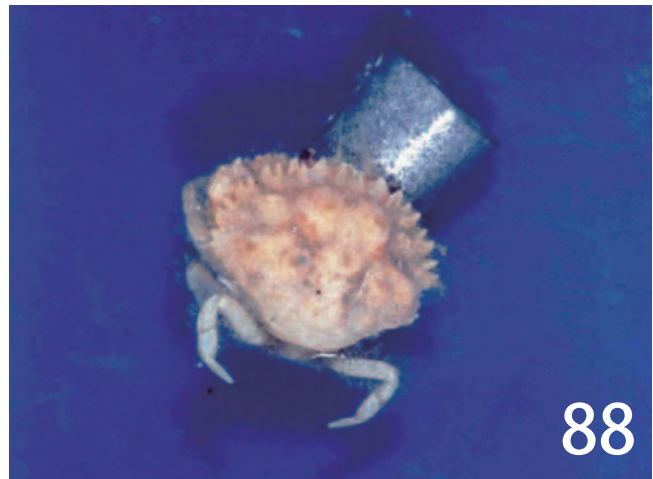
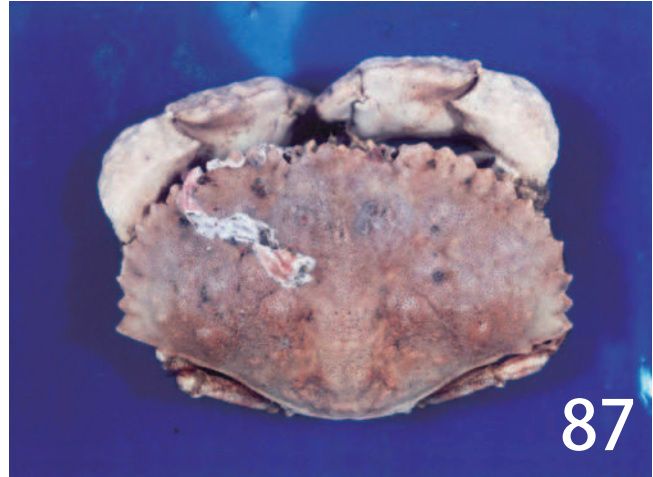


図 20 (クリガニ科) . 86: ケガニ *Erimacrus isenbeckii* (Brandt, 1848).

図 21 (イチョウガニ科) . 87: イチョウガニ *Anatolikos japonicus* (Ortmann, 1894). 88: コイチョウガニ *Glebocarcinus amphioetus* (Rathbun, 1898). 89: イボイチョウガニ *Romaleon gibbosulum* (De Haan, 1833).

89. イボイチヨウガニ *Romaleon gibbosulum*

(De Haan, 1833)

(図 21-89)

甲幅 4 cm ほどで、イチヨウガニ類としては中型。甲の輪郭は扇形で、甲域はあまり明瞭ではなく、短毛で覆われている。額の 3 歯は鈍く尖った突起状で、中央歯がやや長い。甲の前側縁の 9 歯は尖った鋸歯状で、深い切れ込みで明瞭に分けられている。若い個体では歯は大小が交互に並んでいる。

分布 — 北海道から九州まで、日本の全沿岸の浅海に分布するほか、韓国、中国北部にも分布する。

XX. ヒゲガニ科 CORYSTIDAE

90. ヒゲガニ *Jonas distincta* (De Haan, 1835)

(図 22-90)

甲長 3 cm ほど。甲は縦長の楕円形で、左右に湾曲している。甲面は浅い溝で甲域に分かれ、甲域は顆粒で覆われている、甲の側縁には、眼窩外歯を含めて尖った 10 歯が等間隔に並んでいる。第 2 触角が甲とほぼ同じ長さで、羽状毛で縁取られている。海底に潜り、左右の第 2 触角を合わせて呼吸水を取り入れる。

分布 — 日本固有種。相模湾および山形県から九州西部まで、水深 30-130 m の砂、貝殻質の海底に生息する。

91. トゲヒゲガニ *Podocactes hamifer* Ortmann, 1894

甲長 2 cm。甲の輪郭は縦長、丸みのある四角形。甲面は弱く盛り上がり、細顆粒で覆われている。甲域は細い線状の溝で分けられている。額は狭く、前方に突出し、先端が 3 歯に刻まれている。眼柄は細くて短い。肝域に 1 棘、鰓域に 1 棘あり、斜め前方を向く。はさみ脚は左右で著しく大きさが異なる。



図 22 (ヒゲガニ科) . 90: ヒゲガニ *Jonas distincta* (De Haan, 1835).

分布 — 日本固有種で、本州、四国、九州の全沿岸の水深 70-400 m の泥底に生息する。

XXI. ワタリガニ科 PORTUNIDAE

92. ベニイシガニ *Charybdis acuta* (A. Milne Edwards, 1869)

(図 23-92)

甲幅 7 cm ほど。形態はイシガニ *Ch. japonica* に似ているが、色彩が明らかに異なるほか、前側縁の歯が鋭く、第 6 歯が強く側方に突出している。

分布 — 東京湾から紀伊半島沿岸、秋田県以南の日本海の浅海に生息し、ホンコンからも記録されている。

93. フタホシイシガニ *Charybdis bimaculata* (Miers, 1886)

(図 23-93)

甲幅 3 cm ほどの小型種。額縁は 6 歯が刻まれ、甲の前側縁には眼窩外歯を含めて 6 歯ある。第 5 歯がやや小さく、第 6 歯がやや大きくて側方を向いている。地味な色彩であるが、左右の鰓域にある黒褐色の小斑が特徴となる(和名の由来)。多産する瀬戸内海などでは珍味に加工する。

分布 — 本州北部から南の日本海側、太平洋側、インド西太平洋海域に広く分布する。内湾の浅海から水深 400 m ほどまでに生息する。

94. シマイシガニ *Charybdis feriata* (Linnaeus, 1758)

(図 23-94)

甲幅 10 cm 以上になる大型種で、東南アジアでの重要な食用ガニ。甲面は滑らかで光沢がある。額縁には鈍頭の 6 歯、前側縁には眼窩外歯を含めて 6 鋸歯が並んでいる。第 2 歯は先端部の外縁にくぼみがある。はさみ脚は強力で、指部の歯は鋭い。甲面には、個体によりやや異なるが、独特の白い縦縞がある。

分布 — 山形県および相模湾以南、インド西太平洋海域に広く分布し、水深 10-70 m に生息する。

95. イシガニ *Charybdis japonica* (A. Milne Edwards, 1861)

(図 23-95)

甲幅 9 cm。甲の輪郭は後方が狭い楕円形ないし扇形。甲面は滑らかで光沢があるが、若い個体では短毛が生えている。額の 6 歯、前側縁の 6 歯とも先端が鋭く尖る。前側縁歯は鋸歯状で、第 6 歯がやや細く、斜め前方を向く。胃域の前部に横の 2 本の稜があり、前方のものは中央で切れている。前側縁の第 6 歯から内方に向く稜があり、その後方の甲面には稜はない。はさみ脚は強力で、各節に数本の鋭い棘突起がある。

分布 — 房総半島から九州、日本海全沿岸、韓国、中

国北部まで、磯から浅海にかけて生息する。

96. アカイシガニ *Charybdis miles* (De Haan, 1835)

(図 23-96)

甲幅 8 cm。イシガニ類としては大型種で、甲の輪郭はわずかに横長の六角形に近い。額縁は 6 歯からなり、中歯は前方を、間歯は斜め外を向く。側歯は細く、間歯とは U 字形のくぼみで隔てられている。甲の前側縁は 6 鋸歯からなるが、第 6 歯（鰓外歯）は小さい。後鰓域にある白い丸紋が目立つ。

分布 — 新潟県から玄界灘、東京湾から日向灘、東南アジア、インド近海に分布。生息水深は 30-100 m。

97. アカイシモドキ *Charybdis sagamiensis* Parisi, 1916

(図 23-97)

甲幅 8 cm ほどの大型種で、イシガニ類として典型的。甲面は滑らかで、無毛。額は 6 歯で、中央歯は先端が丸いが、間歯は先が尖り外側を向く。側歯は小さく、先が尖っている。甲の前側縁は眼窩外歯を含めて鋸歯状の 6 歯に刻まれている。第 6 歯は長くはないが、鋭く、側方を向いている。

分布 — 日本固有種で、相模湾から土佐湾の浅海から知られている。日本海新記録。

98. ヒロハイシガニ *Charybdis truncata* (Fabricius, 1798)

(図 23-98)

甲幅 3 cm ほどの小型種。額縁の 6 歯はいずれも先端が丸い。中歯は小さな切れ込みで 2 歯に分かれている。それぞれの間歯は中歯よりやや上に位置し、幅がやや広い（和名の由来）。甲の前側縁には眼窩外歯を含めて 6 歯あるが、第 1 歯と第 2 歯は基部で癒合している。分布 — 東京湾および新潟県以南、インド西太平洋海域に広く分布する。生息水深は 10-50 m である。

99. カワリイシガニ *Charybdis variegata* (Fabricius, 1798)

(図 23-99)

甲幅 1.5 cm ほどの小型種。額の 6 歯は中央の 2 歯がやや大きい。甲の前側縁の 2 歯は最後の 1 歯だけがやや大きく、側方に突出する。甲面は短毛で覆われ、胃域に横の 1 本とその前方に 2 対の稜がある。前側縁の最後歯から内側に伸びる稜は心域に達する。腸域にも 1 対の稜があり、その両側の鰓域上に前後に並ぶ 1 個の突起がある。

分布 — 相模湾および島根県以南、インド洋西部まで浅海に広く分布する。鳥取県沿岸新記録。

100. シワガザミ *Liocarcinus corrugatus* (Pennant, 1777)

(図 24-100)

甲幅 2 cm ほどで、甲長もほぼ同じ。甲の前側縁は湾曲しているが、後側縁はくぼんでいるので、前方が広く感じられる。甲面、はさみ脚、歩脚とも短毛で覆われ、甲面には長短の横しわが多数ある（和名の由来）。額縁は 3 歯からなり、中歯が大きい。甲の前側縁は眼窩外歯を含めて 5 鋸歯が並んでいる。

分布 — 青森県竜飛岬以南の日本海および相模湾以南九州西部まで、インド西太平洋海域、地中海、大西洋東部に広く分布する。生息水深は 30-180 m。

101. トガリマルガザミ *Lissocarcinus polybioides*

Adams & White, 1848

(図 24-101)

甲長、甲幅とも 1.5 cm ほどであるが、額が丸みのある三角形に突出しているため、やや甲が縦長の印象を受ける。甲面は平たく、滑らかである。額の先端は中央が浅く切れ込んでいる。甲の前側縁は平たい 5 葉に分かれ、最後がやや小さい。はさみ脚は大きく、掌部の上縁に 2 本の稜が平行して走る。歩脚は平たいが、第 4 脚の指節は円形である。

分布 — 相模湾から南、インド洋西部までの水深 30-100 m に生息する。日本海新記録。

102. ヒラツメガニ *Ovalipes punctatus* (De Haan, 1833)

(図 24-102)

甲幅 5 cm ほど。輪郭はわずかに横長の円形で、甲面は平ら。甲域は不明瞭で、胃域、心域、鰓域を分ける H 字状溝だけが目立つ。額縁には 4 棘あり、側方の棘は眼窩内角上にある。甲の前側縁には同大の 4 鋸歯が並び、各歯の前端が尖っている。はさみ脚は強大で、掌部下縁から不動指下縁にかけて 1 条のやすり状構造がある。第 2 脚の長節上面末端にある隆起とこすり合わせて発音する。歩脚は比較的長い。マル、キンチャク、エッチガニなどの名で出荷されることがある。

分布 — 北海道から両沿岸を経て九州まで、韓国、中国北部に分布し、水深 10-350 m の砂泥底、貝殻底に生息する。

103. イボガザミ *Portunus haani* (Stimpson, 1858)

(図 24-103)

甲幅 7 cm ほどの中型種。甲の輪郭はやや横幅の狭い菱形。甲域は明らかで、各甲域は小顆粒と短毛で覆われている。甲の前側縁には 9 歯が列生し、鰓外歯はあまり突出しない。



図 23 (ワタリガニ科) . 92: ベニイシガニ *Charybdis acuta* (A. Milne Edwards, 1869). 93: フタホシイシガニ *Charybdis bimaculata* (Miers, 1886). 94: シマイシガニ *Charybdis feriata* (Linnaeus, 1758). 95: イシガニ *Charybdis japonica* (A. Milne Edwards, 1861). 96: アカイシガニ *Charybdis miles* (De Haan, 1835). 97: アカイシモドキ *Charybdis sagamiensis* Parisi, 1916. 98: ヒロハイシガニ *Charybdis truncata* (Fabricius, 1798). 99: カワリイシガニ *Charybdis variegata* (Fabricius, 1798).

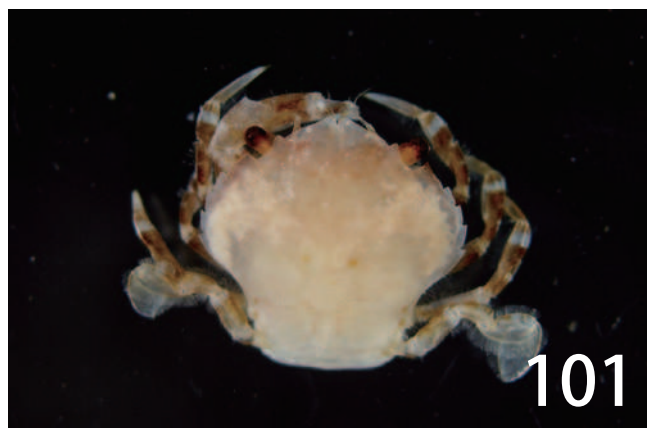


図 24 (ワタリガニ科の続き) . 100: シワガザミ *Liocarcinus corrugatus* (Pennant, 1777). 101: トガリマルガザミ *Lissocarcinus polybioides* Adams & White, 1848. 102: ヒラツメガニ *Ovalipes punctatus* (De Haan, 1833). 103: イボガザミ *Portunus haani* (Stimpson, 1858). 105: タイワンガザミ *Portunus pelagicus* (Linnaeus, 1758). 106: ジャノメガザミ *Portunus sanguinolentus* (Herbst, 1783). 107: ガザミ *Portunus trituberculatus* (Miers, 1876). 108: アミメノコギリガザミ *Scylla serrata* (Forskaal, 1775).

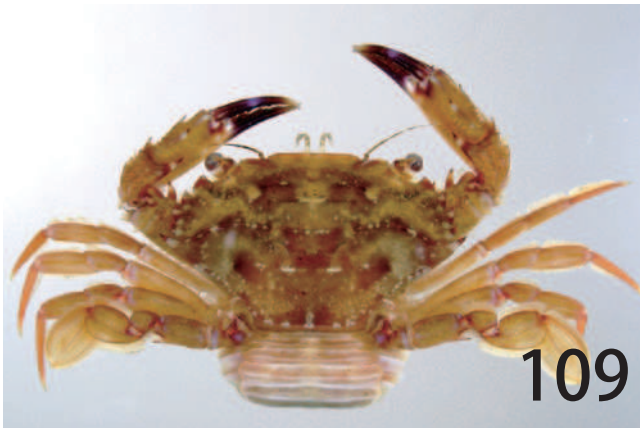


図 25 (ワタリガニ科の続き). 109: フタバベニツケガニ *Thalamita sima* H. Milne Edwards, 1834.

分布 — 秋田県以南の日本海，房総半島以南の太平洋岸，東シナ海に分布し，水深 20-180 m に生息する。

104. ヒメガザミ *Portunus hastatoides* Fabricius, 1798

甲の側棘（前側縁の第 9 歯）を含めて 4.5 cm ほどの小型種。甲面は平たく，顆粒に覆われた甲域に分けられている。額は 4 歯であるが，中央の 2 歯は小さく，互いに接近している。甲の前側縁の 9 歯は 1 歯おきに大小が交互している。最後歯は著しく長く，側方に突出している。甲の後側縁に強く曲がった棘がある。

分布 — 東京湾および秋田県以南，インド西太平洋海域の浅海に広く分布する。

105. タイワンガザミ *Portunus pelagicus* (Linnaeus, 1758)

(図 24-105)

甲幅 20 cm に達する大型種で，世界各地で食用とされる。甲は横長の菱形で，外形はガザミによく似ている。額に 4 棘（中央の 2 本は小さい）あること（ガザミでは 3 本），はさみ脚長節の前縁に 3 棘（ガザミでは 4 本）あることで区別できる。色彩はガザミよりも明るく，特に雄の青地に白い雲紋模様は目立つ。

分布 — 房総半島および秋田県以南，インド西太平洋海域の浅海に広く分布するほか，近年はスエズ運河を経て地中海東部にも分布を広げている。

106. ジャノメガザミ *Portunus sanguinolentus* (Herbst, 1783)

(図 24-106)

甲幅 12 cm で，甲の輪郭は横長の菱形で，額に 4 歯，甲の前側縁に 9 歯ある。形態的に典型的なガザミ属の種であるが，甲面の後半部に白色で縁取られた紅色の丸紋が 3 個あるので，他種とは容易に区別される。日本では少ないが，東南アジアでは重要な食用ガニである。

る。幼個体は流れ藻についていることが多い。

分布 — 房総半島および秋田県以南，インド西太平洋海域の水深 20-30 m に生息する。

107. ガザミ *Portunus trituberculatus* (Miers, 1876)

(図 24-107)

よく知られた食用ガニで，甲幅 15 cm 以上。甲の輪郭は横長の菱形で，甲面は比較的平らである。額縁に 3 棘，甲の前側縁に同形同大に 8 歯が並んでいる。側棘は長大で，側方に突出している。はさみ脚は強大で，長節前縁に 4 本の棘が並んでいる。生時の体色はタイワンガザミほどの大きな違いがないが，雌の方が汚緑色である。

分布 — 北海道南部から日本海側および太平洋側を経て九州，韓国，台湾，中国北部。生息水深は 5-30 m。

108. アミメノコギリガザミ *Scylla serrata* (Forsk., 1775)

(図 24-108)

甲幅 20 cm に達する大型種で，甲の輪郭は比較的幅の狭い楕円形。甲面は全体に弱く盛り上がる。甲面に稜はなく，甲域は不明瞭。額は 4 歯，甲の前側縁には 9 歯ある。いずれも鋸歯状で，最後の第 9 歯も突出しない。はさみ脚は強大で，左右で大きさが異なり，指部の歯も左右で形状が異なる。大きいのはさみの歯は白歯状で，力が強い。全体に灰緑色で，はさみ脚や歩脚に黒褐色の編み目模様がある。従来，1 種と考えられて，色彩や個体変異に富むと考えられていたが，現在では詳細な形態的研究に加えて DNA による比較が行われ，4 種に細分されている (Keenan *et al.* 1998)。4 種とも熱帯海域の河口域，マングローブ湿地に生息し，各国で最も重要な食用ガニである。日本には本種のほか，はさみや体の下面が赤褐色のアカテノコギリガザミ *S. olivacea*，甲面や歩脚に編み目模様がなく，額歯も前側縁歯も鋭いトゲノコギリガザミ *S. paramamosain* が分布する。

分布 — 房総半島以南，インド西太平洋海域に広く分布している。日本海では鳥取県沖から記録されている。

109. フタバベニツケガニ *Thalamita sima*

H. Milne Edwards, 1834

(図 25-109)

甲幅 3.5 cm ほどで，ワタリガニ類としては小型。甲の前側縁には眼窩外歯を含めて 5 歯あるが，第 4 歯は著しく小さい，額縁は中央の小さな切れ込みで 2 葉に分かれている（和名の由来）。防波堤などだけでなく，磯の海藻の間にも多い。

分布 — 房総半島以南の太平洋側，秋田県以南の日本海側，全インド西太平洋海域に広く分布し，磯から水深 40 m くらいまでに生息する。

XXII. エンコウガニ科 GONEPLACIDAE

110. エンコウガニ *Carcinoplax longimana* (De Haan, 1833) (図 26-110)

甲はやや横長の楕円形で，幅 6 cm ほどになる。甲面は滑らかで，甲域は不明瞭。甲の側縁は全体として丸いが，小型個体では前側縁に 2 つの鋭い突起があり，成長とともに鈍頭になり，甲幅 4 cm 以上の個体では完全に摩耗する。十分に成長した雄では，はさみ脚は甲幅の 5 倍くらいになる。

分布 — 北海道南部から南，太平洋岸および日本海沿岸から東シナ海，東南アジア海域を経て南アフリカまで広く分布する。水深 50-100 m の細砂泥底に多い。鳥取県沿岸新記録。

111. ヒメエンコウガニ *Carcinoplax surugensis* Rathbun, 1932 (図 26-111)

甲幅 1.5 cm ほどの小型種で，甲の輪郭は六角形に近い。甲面は滑らかで，前後に弱く湾曲する。甲域は不明瞭。額は広く，切断された形で，中央に切れ込みはない。鈍い眼窩外歯の後方に 2 歯ある。第 1 歯は三角形で，先端が鋭く前方を向く。第 2 歯も鋭く尖り，斜め前方に突出している。はさみ脚は比較的大きく，滑らか。長節は短い。腕節は大きく，その内角は大きな歯状で，先端が棘状，また，外面に 1 小棘がある。歩脚は細長く，前節と指節は平たい。

分布 — 日本固有種。相模湾から土佐湾までの水深 65-120 m および新潟県沖と富山湾から知られている。鳥取県沿岸新記録。

112. ケブカエンコウガニ *Carcinoplax vestita* (De Haan, 1833) (図 26-112)

甲幅 1 cm ほど。甲は横長の六角形で，前側縁に 2 本の鋭い突起がある。甲，はさみ脚，歩脚が軟毛で密に覆われている。はさみ脚は左右で大きさが異なる。

分布 — 北海道南部から南，太平洋側および日本海側を経て九州，東シナ海まで分布し，水深 30-100 m の細砂泥底に生息する。鳥取県沿岸新記録。

113. ヒメメダカガニ (新称) *Microgoneplax guinotae* Takeda & Komatsu, 2010 (図 26-113)

甲幅 1 cm ほどの小型種。甲は滑らかで，前後に湾曲する。眼柄が長く，従って眼窩も長い。眼窩上縁は中央部から側方が斜め後方に向き，大きく窪む。眼窩外歯が鋭く尖って側方に突出し，甲の側縁中央部に位置する。眼窩上縁の側部の窪んだ部分に大きな角膜部が収まる。歩脚は細長い。

分布 — 従来記録は，和歌山県周参見町沖の水深 100 m から得られた雄 1 個体(完模式標本)のみである。日本海新記録。

114. ヒメメナガエンコウガニ *Ommatocarcinus fibriophthalmus* Yokoya, 1933 (図 26-114)

甲幅 1 cm ほどの小型種。甲は横長で，眼窩外歯の後方に小突起がある。後側縁の後方への狭まりはあまり強くない。眼柄が極端に長く，眼窩外歯よりもはるかに外方に出ている。

分布 — 対馬と五島列島間の水深 146 m から 1933 年に新種報告されたのみ。日本海新記録。

115. メナガエンコウガニ *Ommatocarcinus macgillivrayi* White, 1852 (図 26-115)

甲幅 3.5 cm ほどで，甲長は半分程度。甲の輪郭は著しく横長で，突起状の眼窩外歯の後方は側縁が後方に強く狭まっている。甲面の中央を横に稜が走り，甲面を前後に分けている。額は狭く，その付け根から著しく長い眼柄が出ている。眼柄は眼窩外歯を越えて側方に突出している。はさみ脚は長節と掌部が長く，腕節は短い。歩脚は細長い。

分布 — 房総半島から九州西北部，能登半島以南の日本海の浅海(水深 35-150 m) 泥底に生息するほか，オーストラリアとニュージーランドからも知られている。鳥取県沿岸新記録。

XXIII. マルバガニ科 EURYPLACIDAE

116. マルバガニ *Eucrate crenata* De Haan, 1835 (図 27-116)

甲幅 3 cm。甲の輪郭は丸みのある四角形ないし六角形で，見た目に重厚な感じである。甲は前後に弱く湾曲し，甲面は滑らかで，光沢がある。甲の前側縁には眼窩外歯を含めて 4 歯あるが，先端が尖ることはない。第 4 歯は著しく小さい。はさみ脚は強力で，腕節

の先端部分に軟毛が密生している。両指とも先端が鋭く尖っている。歩脚は細長い。第1-3対は無毛であるが、第4対の先端2節には前後縁とも長毛が生えている。分布 — 男鹿半島および東京湾以南、東南アジアを経てインド洋西部までの水深18-110 mの砂泥底に生息する。

117. キバガニ *Heteroplax nitida* Miers, 1879

(図 27-117)

甲幅1 cmほど。甲の輪郭は横長の四角形であるが、後方が明らかに狭まる。甲面は滑らかで、平ら。甲域は不明瞭。額は狭く、中央の切れ込みは小さい。眼窩は大きく、斜め後方を向く。眼窩外歯に続いて、切れ



110



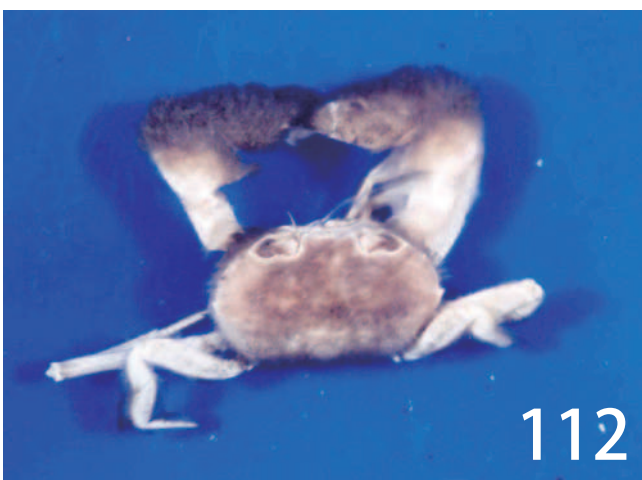
113



111



114



112



115

図 26 (エンコウガニ科) . 110: エンコウガニ *Carcinoplax longimana* (De Haan, 1833). 111: ヒメエンコウガニ *Carcinoplax surugensis* Rathbun, 1932. 112: ケブカエンコウガニ *Carcinoplax vestita* (De Haan, 1833). 113: ヒメメダカガニ *Microgoneplax guinotae* Takeda & Komatsu, 2010. 114: ヒメメナガエンコウガニ *Ommatocarcinus fibriophthalmus* Yokoya, 1933. 115: メナガエンコウガニ *Ommatocarcinus macgillivrayi* White, 1852.